

## 道南地域における外来魚ブラントラウト

ブラントラウトは、ヨーロッパおよび西アジアが原産のサケ科魚類です。北海道では1980年に日高管内新冠人工湖で初めて確認されて以降、分布は拡がり、生息情報が1尾でも得られた水系数は50を超えるようになってきています。本種は、在来サケ科魚類との餌や生息空間をめぐる競争あるいは直接的な捕食を通して在来魚やさけます等の漁業資源への影響を及ぼす可能性があり、道においては予防措置として北海道内水面漁業調整規則により移植放流を禁止するなど、外来魚拡散防止に向けた対策が進行しています。

さけます内水試では、さけます増殖団体、漁業協同組合、市町村、道庁ほかの協力を得て、本種の管理方策を検討するため、本種の定着、降海移動や食性などの生態を調査してきました。ここでは、日高管内と同様に古くからブラントラウトの生息する道南地域の本種の生息状況、ならびに本種の捕獲により在来魚が回復した事例を紹介いたします。

道南地域におけるブラントラウトは、長万部町の静狩川水系に1980年頃に放流されたのが最初とされます。静狩川支流金山川には、サケのふ化場があります。放流から20年を経過した当時、大量のブラントラウトの生息が確認され予備調査により、本種による放流サケ稚魚の食害の影響は著しいものと推測されました。そこで、2004年から地元渡島管内さけ・ます増殖事業協会、長万部漁業協同組合、長万部町等が一丸となって本格的な捕獲を開始しました。

ブラントラウトの捕獲は、毎年数回、ふ化場から本流合流までの約2kmの支流区間で背負い式電気ショッカーを主体に、一部、水深の深い場所では小船を使い刺網と電気ショッカーを併用して行なわれました。捕獲開始から4年目の2007年には、本種の捕獲尾数は減少に転じ、6年目の2009年以降はほとんど捕獲されなくなりました(図1)。図2に、約2kmの流程において電気ショッカーで採集された魚類の個体数組成の推移を示しました。捕獲開始当初の2004年では、ブラントラウトの魚類全体に占める割合は95%に達し、続いてサクラマス3.9%、カジカ類0.9%、アメマス及びスナヤツメ各0.2%と在来魚は



写真 静狩川支流金山川における電気ショッカーによるブラントラウトの捕獲

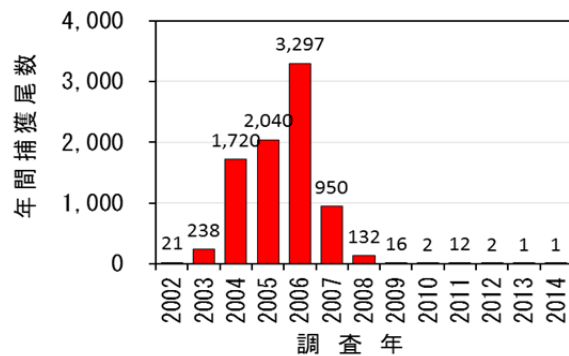


図1 静狩川支流金山川におけるブラントラウトの年間捕獲尾数  
図中の数字は、捕獲尾数を示す

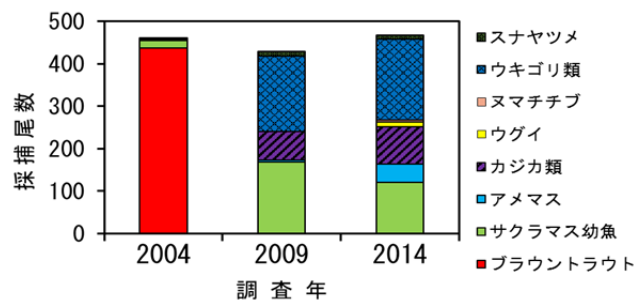


図2 静狩川支流金山川における魚類相の変化

著しく減少していました。捕獲開始から5年経過した2009年には、ブラウトラウトはほとんど獲れなくなり、ウキゴリ、カジカなどの底生魚類やサクラマスなどの在来魚が回復してきました。さらに5年後の2014年には、アメマス、ウグイ、スナヤツメも見られるようになりました。静狩川のブラウトラウト放流前の魚類相は不明ですが、支流における本種の著しい抑制により在来魚が急速に回復を見せたものと推測しています。

渡島管内では、静狩川支流金山川と併行して、ブラウトラウトが多く生息する鳥崎川（森町）、戸切地川（北斗市）などのさけます増殖河川において、渡島管内さけ・ます増殖事業協会が主体となり関係機関が連携して10年以上に渡り捕獲事業を継続しています。金山川は、川幅が1～5m、流程も2km程度と分布範囲が小さかったため著しい抑制が可能でしたが、他の河川では川幅や流程が大きく、さらには、上流のダム湖にも多く生息していることもあり、金山川より生息数の抑制効果は低いものの、少ない生息尾数に抑えております（図3）。

図4は、静狩川、鳥崎川周辺の渡島噴火湾地域河川の魚類調査で採集された魚類のうちサケ科魚種の個体数組成を示したものです。濁川、森川、茅部中ノ川においては、下流部の横断工作物により遡河性魚類の遡上は阻害されているため、サクラマスの生息が認められていません。その他の河川では、幸いなことにブラウトラウトは採集されませんでした。サクラマスは道南における極めて重要な漁業資源であり、外来サケ科魚類の減少による生産増も期待できるかもしれません。

檜山管内においては2013年以降遊漁者から本種の生息情報が数件寄せられ調査したところ、上ノ国目名川において2歳魚のみ6尾が採集されましたが、稚魚や高齢魚は確認されていません。この支流にもサ

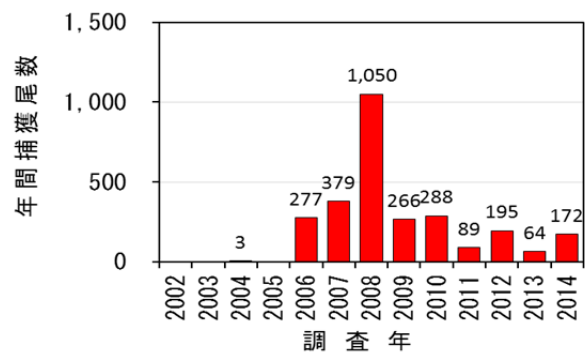


図3 鳥崎川におけるブラウトラウトの捕獲尾数

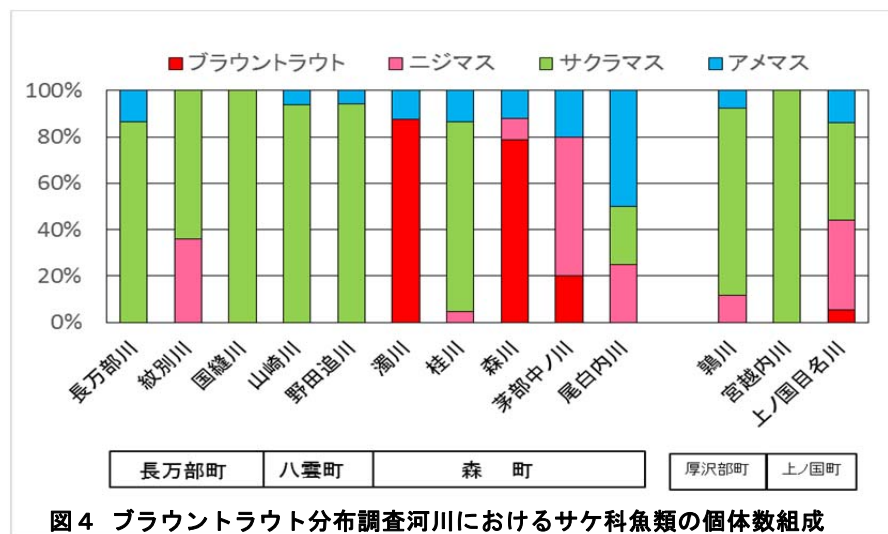


図4 ブラウトラウト分布調査河川におけるサケ科魚類の個体数組成

ケのふ化場があり、今後も生息状況のモニタリングを進める必要があります。以上の資料の詳細につきましては、平成23年度～平成26年度さけます内水面水産試験場事業報告をご覧ください。

参考資料

- ・外国産さけます類の移植とその問題点 試験研究は今 No. 377
  - ・ブラウトラウトの魚食性 試験研究は今 No. 673
  - ・サケ科魚類のプロファイル-8 ブラウトラウト 長谷川 功 SALMON 情報 No. 4 (2010)
  - ・北海道における外来魚問題（外来サケ科魚類）下田 和孝 日本水産学会誌 78, 754-757 (2012)
- （さけます・内水面水産試験場 道南支場 竹内 勝巳）